

OS GIKEN
ハコスカ
×
TC24-B1Z



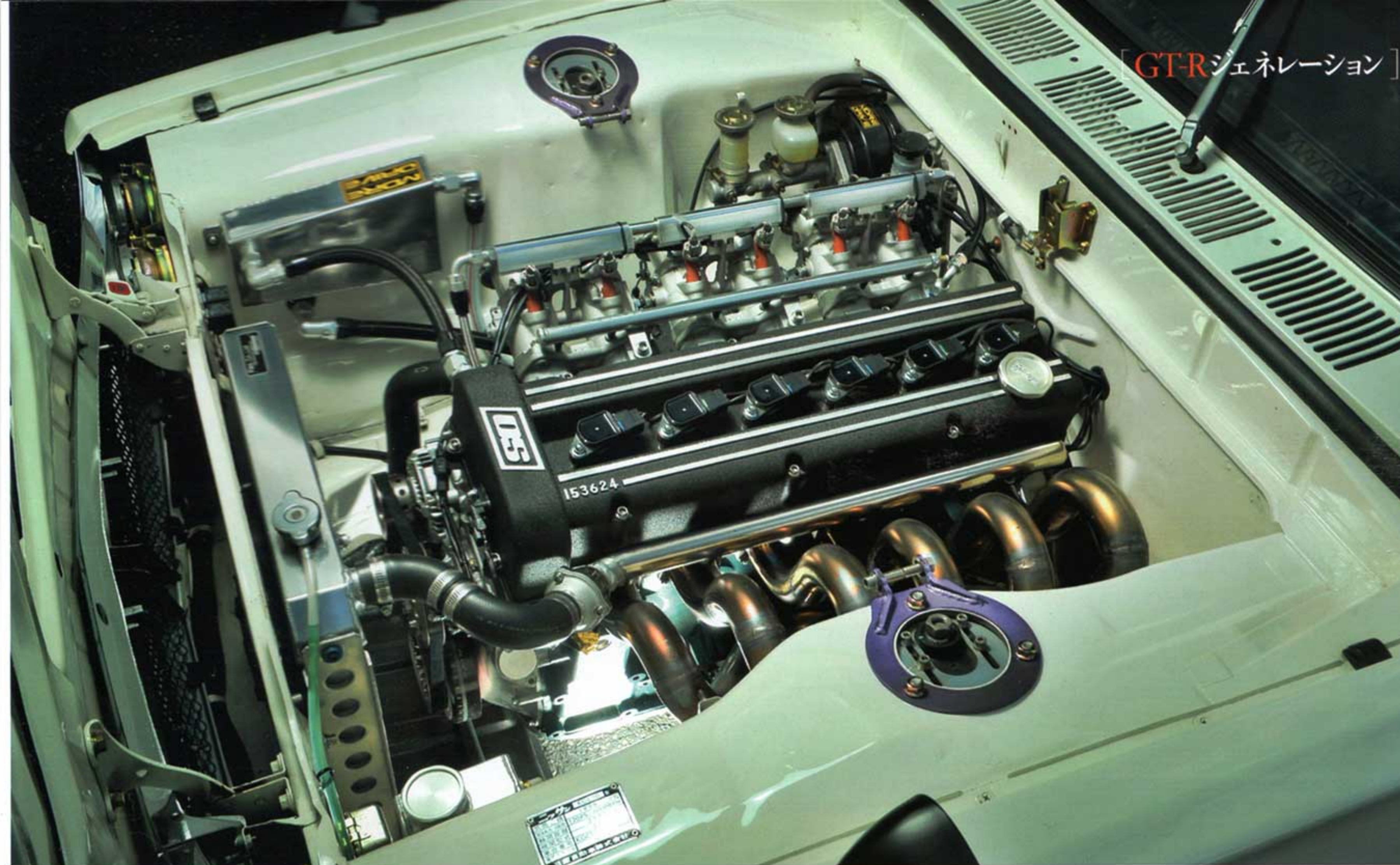
Rocky Auto
ケンメリ
×
BNR32

本物を手にする予算以下で、本物以上の楽しさを味わう

国内外の旧車ブームにより、その相場は1,500万円にまで達したハコスカGT-R(2ドア)。ケンメリに至ってはなんと3,000万円! 減ることはあっても増えることがない旧車が高騰するのは無理もないが、もはや一般人がおいそれと購入できる額ではなくなった。「それでもRを!」というのでもいいけれど、最新の技術を駆使し、本物以上に価値ある、楽しめる現代版のハコスカ、ケンメリを紹介しよう

文:西川 淳 写真:小林 健(本誌)
取材協力:OS技研 ☎086-277-6609 <http://www.osgiken.co.jp>
PRO SHOPナカガワ ☎079-272-3883
ロッキーオート ☎0564-66-5488 <http://www.rockyauto.co.jp/>

快適性と速さと安心をプラス!
毎日走って楽しめるケンメリ



現代の技術を駆使して生まれた
旧車のニュージェネレーション

革新のアプローチ

世の中、旧車ブームでやかましい。あのクルマの値段が何倍も上がったとか、これが次に上がりそうだとか、旧車マニアの誰もが今、まるでクルマ屋がプロカーのような会話に明け暮れている。クルマは乗ってナンボ、などとワケ知り顔で言うつもりならさささらない。所有する喜び、眺める喜びもあっていい。けれどもせめて、「あのクルマ、乗ってみると意外に楽しいんだ」、なんていう会話だけは廃れてほしくない。憧れの形をいつかは運転してみたいという欲求こそ、クルマ趣味の原点だと思っただ。

とはいえ、この旧車が高騰する一方だ。GT-Rでいえば第1世代が、世界的な人気もあって、もはやスーパーカー級の相場にまで値が上がりつつあった。それに伴って、今じゃ普通のGT-TやGT-Xだって、かなり値が張るようになっていて、日に日に、乗りたくても乗れない環境になっていくだろう。

一方で、こんな人も増えてきた。旧車のスタイルは大好き。あのころのクルマの形には、現代と違って夢があった。だからいつかは乗ってみたいのだけれども、古いクルマは何かと大変そう。重いステアリング、扱いづらいマニュアルミッション、効かないクレーン(あればまし)、ガソリン臭さにかび臭さ、などなど。

運転はもろもろのこと、万が一、どころか千くらいありそうな故障も心配だし、日頃のメンテナンスや後々のパーツ供給にも不安が山ほどあって……。よほど覚悟のある好き者でなければ、そうおいておくと、旧車の世界へ踏み出せない。

好きな形、憧れのスタイル、夢の名車に、乗りたくても乗れないという状況を何とか変えられないのか。愛知県岡崎市の旧車専門店「ロッキーオート」の渡辺喜也代表の回答は明快だ。

比較的新しいクルマ、例えばBNR32にケンメリRの皮(FRPP製)を被せてみる。なるほど中身さえ新しくなれば、旧車を所有することの不安のかなりの部分が払拭されるはずだ。

店頭にて。実をいうと、そうと言われるまでまるで気がついていなかった。車高が落ちてホイールが換わっていたから、ちょっとヤンチャなR仕様のケンメリを売ってるんだな、くらいに思っていた。後から聞けば、その後ろに停められていたケンメリは本物のKPGC110。近くに並べられていてなお、違和感なし。このクルマがこの日の取材対象だと聞いて、半ば信じられない気分を目を皿のようにして眺めてみれば、いくつかが「おや?」と思う部位もあるにはあるけれども、全体の雰囲気はやっぱりケンメリR仕様である。こいつの中身がBNR32であるということによりやく納得できたのは、ドアを開けてからのことだった。

見慣れたR32GT-Rのダッシュボード。けれども、窓の向こうの景色は前後左右まったく違って、ケンメリだ。そのギャップを楽しみつつ、お気軽にエンジンスタートし、お気軽にクラッチを繋いで、お気軽にアクセルを踏み込んだ。乗った印象は、どこかの中古車ショップでちょっととうが立ったBNR32に試乗しているのと何ら変わらなく、ボディの立て付けにまるで不安はなく、ウインドウまわりもびびることなくしつかりして、車体の剛性不足など感じない。トルクの塊に乗っかるような加速フィールは、まさに昔乗っていたBNR32のそれ、走り込んでいくとだんだんとケンメリのカチカチに乗っているというのを忘れてしまえばいい。

後方を確認しよう、あるいはすくないドアミラーを探し、あわてて視線をフェンダーミラーに移した。目視で薄いリアウインドウを見てあらためて、「うわっ、ケンメリに乗ってたんや」と思いつく。



なによりも、街行く人や、対向車、追い越されるクルマからの視線がいちいち楽しい。ゆっくり走り走っているなら、「ケンメリGT-Rだ!」という、まるで本物に遭遇したような驚きだろうし、高速道路でぶち抜かれた相手なら、「どうしてケンメリがそんなに走るの?」という驚きに違いない。何といても、この現代に甦ったケンメリBNR32、勝手に略して、現メリGT-Rは、編集部がBNR32に加速段階から難なくくっついていけるのだから!

本物と間違えて驚かれるよりも、この形が本物ではありえない性能を発揮しているところを見せつけるほうが、ホクは楽しいと思った。なるほど、渡辺代表の言う通り、この現メリGT-Rなら、東京へだってどこへだって、快適にかつ愉快に走っていきそう。

長年にわたり、旧車をいかに速く、いかに楽しく走らせるかを実践し続けてきたショップだからこそなした、コペルニクスの転回による、恐るべきレプリカ197台しかないといえKPGC110が3000万円以上もする昨今、約1/3、NA仕様なら約1/4の投資で本物の倍は速いコイツを毎日楽しむのも大いにアリだと、心底感じる。

その翌日は、愛知県岡崎から兵庫県西脇市まで足を延ばした!



西川 淳(にしかわ・じゅん)
生粋のスカG好きだが、スーパーカーや旧車も大好きだ。刺激的な匂いを求めて世界を駆け巡る根っからのカーゲイだ



あまりの力強さとダイレクト感に踏んだ瞬間、楽しくて笑いが止まらない。床までアクセルを踏むのはかなり勇気が必要だ。エンジン価格は500万円～



有り余るパワーに対して、シャシー性能が完全に不足。本気で走るならボディも作り直しが必要。ただ、B2&としては世界レベルの速さと楽しさがある！



L28エンジンで使うのはブロックのみ。その他のパーツは最新の製造技術を用いてOS技研で製造される。駆動はチェーンのほかカムギヤトレインも選べる



TC24-B1Zのプロト第2弾となるこのエンジンはダイレクトイグニッションやSARD製の12ホールインジェクターを採用し、モータックで制御している。パワーと扱いやすさを追求した現代版



オーナーの東田新吾さん。S30ZにBNR34も所有する根っからのクルマ好き。「3年待ってTC24が手元に来ました。ただ、待った以上の価値はありますね」



メーター類はすべてオリジナルではないが、雰囲気損なわないように同位置に。スピードメーターはシルビア用。ただし、全開時は見ている余裕がない

ハコスカ×TC24-B1Z 革新のL型ツインカム 鋭いレスポンスに驚き

心に響くチカラとレスポンス
生き物のような存在感あり！

そこではロッキードとは全く違う方向から、第1世代GTRに現代にも通じるパフォーマンスを与え、かつ扱いやすく仕立てあげたハコスカが待っていた。幻の「OS技研」製TC24-B1Zの完全復刻版であるTC24-B1Zの試作2号機が完成し、いよいよ全開テストが可能との連絡があったからだ。OS技研と「プロショップ・ナカガワ」の手によって現代に甦った、ツインカム24バルブヘッドを持つ究極のL型(L28ベース)、TC24-B1Zの内容は本誌121号に詳しいが、3・2LNA+SARD製12ホールのマルチダイレクトインジェクション仕様で400psを達成。ベンチでは1万rpmまで回ったというシロモノだ。テストカーということで、慎重に走り出すも、拍子抜けするほど扱いやすい。カーボンクラッチはミートに手こずることもなく、繋いだ途端、まるで右足とエンジンが元から剛結されていたかのようになり、ツキ良くトルクが溢れだす。何とも言えず滑らかでシャープなエンジンフィールは、まるでどこまでも吹け上がってしまふかのようで、軽い車体もまたアクセルペダルの動きにダイレクトに反応し、速度をぐんぐん増していった。

驚愕は、さらにその先にある。5000rpmを過ぎたあたりから、明らかにサウンドが変わる。カムに乗るなんて生易しいもんじゃやない。まるでエンジンの精緻なメカニズムがブロックを脱ぎ去って、ハダカで回りだしたかのような意地力の続く8000rpmをリミットにシフトアップしたが、放っておくとどこまでも回ってしまふようで、怖い。そのまま中身が飛んでいってしまうかも、なんてバカげた想像すらしてしまう。心を落ち着けて乗るのに苦労した。回すたびに、まるで臓物を身体の中に押しこめようとするかのような息を詰めるものだから、肝心のインブレがなかなか取れない。ざりざり、あまり調子に乗って走っていると、大事なクルマを傷物にしかねない。何とか気持ち落ち着けて、エンジンフィールを冷静に味わってみれば、やはりこのエンジンの魅力は三つに尽きると悟った。すなわち、ツキ、チカラ、高回転である。

アクセルを踏み始めた途端、カンパツを入れずに反応するツキの良さ、そこからチカラがみるみる湧き出して車体をぐいぐい引張っていく。そしてそれが高回転域までスムーズかつシャープに続くという面白さ、だ。

心に響くエンジンとはこのことで、21世紀に入ってからの方、これほど気持ち揺さぶられた官能エンジンはほかにない。乗り終えて笑いと震えが止まらなかった。内燃機関は、まだまだ面白い！

TC24-B1Zを積んだハコスカは、たとえ24バルブ化されたエンジンであっても、Rを名乗ることは許されないかもしれない。けれども、そのパフォーマンスと官能性において、例えばサーキットで活躍したワークスマシンのそれを現代風に、しかもさほどの苦労もなく体験できるという点で、本物のKPGC10を上回る存在かも知れない。少なくともボクはS20を積んだハコスカよりも、このクルマのほうが何倍も楽しいと思った。

趣味の世界において、その価値基準を何に求めるかは、人それぞれである。しよせん好き嫌いの世界なわけで、やれ高尚だ、やれ低俗だと、他人があれこれ言う話ではないだろう。要するに、選択肢は多ければ多いほど、享受して楽しむわかれ側としては、うれしいわけである。今回の二台は、憧れの旧車を楽しむ趣味の世界を、まったく違うアプローチで拡げてくれた。困ったことに、いずれのモデルも、自分のガレージに仕舞い込みたくなってしまったのだ。



TC24とは真逆で、280psを誰でも気軽に楽しめる懐の深さがある。BNR32ベースは1,166万4,000円～だが、FRなら861万1,840円(税込)～だ

ケンメリ×BNR32 旧車生活の概念を覆す 快適快速の痛快マシン



見た目はケンメリなのだが、乗り込むと目の前の世界はBNR32。センターコンソール部のパワーウィンドウのスイッチ、ドアパネル以外はそのままだ。気を抜くとドアミラーをついつい確認してしまう



ABCピラーをカットして、ケンメリのボディを被せているが、オリジナルのロールケージ(室内には見えない)や補強を加えることで、十分な剛性を確保



外観にはベースのR32の面影はなく、完璧にケンメリ。ボディは5層構造のFRPで、強度も十分。細部はリプロパーツを使うが、一部はオリジナルで成型!



「ロッキード」の渡辺喜也代表。旧車の世界をより身近にする革新モデルを数多く提案。「旧車を毎日楽しみたいというお客さまには最適な1台」です



エンジンを開けるとR32の世界が広がる。ヘッドカバーを塗り替えているが、RB26はオリジナル。200kgほど軽いので、走りは想像以上に力強く軽快

GT-R

Magazine
123 2015/Jul

WEB | CARTOP
<http://www.webcartop.jp>

長谷見昌弘×歴代R
インプレ動画配信中!

平成27年6月1日発行・発売(偶数月1日発行・発売) 通巻108号 第19巻 第4号 平成10年9月18日第3種郵便物認可 定価1300円

20th
Anniversary

世代が変われどRの魂は不変なり
ハコスカ~第2世代~R35

GT-Rジェネレーション



NISMO大森ファクトリー発の特別プロジェクト
至高のBCNR33を目指して
今年9月20日(日)に富士スピードウェイで開催
「R's Meeting 2015」
イベントエントリー募集開始!